

昭和58年度 和歌山県名匠

【^{まき}蒔^え絵^し師】

^{はま}濱 ^の野 ^{えい}榮 ^じ二 ^{ろう}郎

(号 等等人)

【現住所】 海南市

【生 年】 明治34年

業績及び経歴

日高郡南部町（現：みなべ町）出身、小学生の頃、教科書の一節「研ぎ出し蒔絵は日本の誉れ。」に感動し、12才の時、海南市黒江の蒔絵師石坪安治郎氏に師事し、7年間の修業の後独立したが、模写では新しい道が開かれなと考え、さらに技術・技法の修得を志し大正14年、京都の著名な蒔絵作家中大路季嗣氏に師事して、さらに研鑽を積んだ。

昭和4年（現）海南市に帰り、蒔絵師として製作活動に精進するとともに、この間和歌山の美術会「黒鳥会」結成に参加し、美術界諸氏との交流を深め、その知識を漆芸にとり入れ数々の優秀な作品を製作した。

戦時下には紀州漆器蒔絵沈刻工業組合の専務を務めるなど業界育成に尽力した。

戦後は、海南漆器の名声を高めるため専ら優秀な製品づくりに没頭し、さらに昭和52年紀州伝統漆器振興会の設立に尽力するなど漆器産業発展のために大きく貢献されている。

近年は、下地、塗り、蒔絵の工程を自ら行ない、漆茶碗の創作に取り組むなど本県蒔絵師の第一人者として、絶えず業界に新風を送っている。

昭和57年度、伝統的工芸品産業振興協会から伝統工芸士と認定された。